

他大学の取組

以下には、GPAを、他の大学でどのように使っているかを紹介します。いずれも、アメリカの大学では一般的な取組ですが、国内の大学では、まだ検討・試行段階であることが多くなっています。

本学においても、このような取組の導入については、継続して検討していきます。

①学習指導～退学勧告

GPA値が一定の基準に満たなかった学生は、大学が定めるアドバイザー教員の指導を受けることとし、さらにそれが一定期間続いた学生（3セメスター連続してGPAが2.0未満など）には、学部長等から学習指導・生活指導等を行い、それでも成績不振が続いた場合に退学勧告がなされる。

②CAP制との連携

1セメスタに履修登録できる単位数を、12～18単位と少なく設定したうえで、一定のGPA値を超えた学生のみ、単位数を上乗せして登録することができる。

③卒業・進級要件として

卒業時や進級時の要件のひとつとして、累積のGPA値が一定以上であることを設定する。アメリカでは2.0、国内では1.8～2.0に設定するケースが多くなっており、例えば、卒業要件に必要とされるGPA値が2.0（現状の成績のオールC評価（合格最低点）の学生）は、個々の科目の単位は修得できたとしても、卒業はできない、ということになる。

④成績評価の可視化

学部学科単位のGPA値の平均値や、授業科目ごとの評定分布図を可視化して、教授会等で共有したり、構成員に対して公開することで、成績評価について、組織的に検討する機会を設ける。

